

健診について

血圧

検査の目的	高血圧・低血圧の指診。
使用機材及び備品	自動血圧計・枕・水銀レス血圧計・ステート・延長コード
取扱いの注意	<ul style="list-style-type: none"> ・原則としてケースごと会場まで運ぶ。 ・待ってもらう時は座って安静にしてもらう必要があるため、必ず待ち椅子を用意する。 ・『血圧』の看板を受診者が見やすい位置に掲示する。
始業確認	<ul style="list-style-type: none"> ・自動血圧計が、正常に作動するか確認する。 ・水銀レス血圧計が、圧力をかけることにより正常に作動するか確認する。
検査の手順	<ul style="list-style-type: none"> ・厚手の上着など重ね着している場合は脱いでもらう。 ・シャツなど上にまくりすぎて腕が締め付けられないように注意する。 ・血圧の薬を飲んでいるか、治療をしているかを聞く。 (治療中、または高血圧の薬を服用している場合は、問診表に“現在治療中の病気”の“高血圧”が記載されているか確認する。) ・右腕で安静時に測定する。 ・1回目の結果が以下の一つでも該当した場合、2回目を測定する。 (その際2～3回深呼吸をしてもらう) <ul style="list-style-type: none"> ・上の血圧が130以上(130も含む) ・下の血圧が85以上(85も含む) ※低血圧の場合は再測定不要。 ・受診票には、低い数値のみを枠内に記入する。 ・心電図記録紙には2回まで数値を記入する。 ・飲食後、何時間経っているかを聞く。 3.5時間未満、3.5時間以上、10時間以上のいずれかに○をつける。(飲食後の時間は記入しなくてよい) ・問診表に未記入などの不備がある場合は聞き取って記入する。(その際、こちらで問診をお聞きしてよろしいですか？と声掛けをする)
記録方法	<ul style="list-style-type: none"> ・血圧測定の結果を受診票に記入する。 (2回測定した場合は2回とも記入) ・同時に、心電図記録紙の血圧記入欄に転記する。 ・飲食を聞いた場合は、上記“検査の手順”のように記入する。 ・血圧の治療をしている場合は上記“検査の手順”のように記入する。 ・受診票の血圧担当印欄に押印する。 ・OCR処理の為、数字は丁寧に記入する。
チェック項目	

受診者への対応	・リラックス状態で測定することを徹底する。
混雑時の対応	・血圧計の台数を増やし、応援を出す。
コース変更時の処置	・基本的にコース変更はないが、生じた場合は責任者へ報告する。
その他留意点	・走ってきたり、ドキドキしている人には深呼吸してもらい リラックスした状態で測定する。 ・なんらかの理由で、右腕で測れない(測りたくない)場合は、 左腕で測定する。
トラブル時の対応	・問診に不備があっても測定中は話しかけない。 ・測定結果に納得がいかない受診者がいた場合、少し間隔を置いて 3回目を測定するなどして対応する。 ※その際は、合計3回測定分のうち、一番高いものを消し2回分の結果を 記入する。
故障時の対応	・始業確認時、または検査の途中で 機器の故障等があった場合は、直ちに責任者へ報告する
よくある質問	Q: 血圧治療中だから、1回計ればいいと言われたら A: 1回だけ計る。 Q: ここで測るといつも高くでる。普段は正常値。 A: 緊張や、その時の状況で変わってしまいますので。と丁寧に返答する。 Q: 血圧が高いとどうなるの？ A: この後、診察がありますので、先生にきいてみてください。